教育研究業績書

2024年10月22日

所属： 教育学科　　資格： 講師　　氏名： 渡邊　真美

研究分野	研究内容のキーワード
特別支援教育全般、学校教育と音楽療法	特別支援教育、自立活動、発達障害、肢体不自由教育、知的障害教育、自閉症教育、特別支援教育における音楽、
学位	最終学歴
修士（学校教育学）	兵庫教育大学大学院　学校教育研究科　学校教育専攻　臨床心理コース

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.プレゼンテーションによる実践のまとめ、振り返りの報告	2024年4月～現在	特別支援学校での教育実習後には、特に研究授業についてパワーポイント等を活用して指導案、授業の工夫、作成した教材、苦労した点、指導教官の助言等、実施した授業について発表をすることで、まとめて伝える練習をし、また発表を聞くことで学生自身の知見を広げる。
2.通常学級における担任の指導力を育てる模擬体験を通した授業	2024年4月～現在	通常学級において気になる行動やトラブルに発展する行動を示す児童について、担任として指導する必要がある。いつ、誰に、どのように指導、支援をするかは、理論だけではなく場面設定をして少人数グループで演技を行うことで、児童の特性に応じた言葉かけやクラスの児童をも視野に入れた指導を考えることができている。また、模擬体験による指導ではあるが教師の立場、児童の立場から気持ちを推測することができ、担任が児童との信頼関係を築くプロセスにも影響を与えられると考えている。
3.特別支援学校で実践されている具体的な指導方法の実技指導	2024年4月～現在	実際の教育現場では特に重度重複障害のある児童生徒の指導においては、指導者が直接触れて指導、支援する場面が大部分である。直接的な指導、支援のスキルは、理論上では理解できていても児童生徒の感じ方については体験しないと理解ができないため、特に動作法、感覚運動、コミュニケーション、摂食指導、支援機器の活用等については理論と実技を合わせた指導をしている。実技後は学生から児童生徒の感じ方についての驚きや発見、直接的な関り方についての工夫等について聞くことができる。
4.実践記録映像の分析を基にした特別支援学校の授業についての検討	2024年4月～現在	教員養成課程における特別支援教育分野の授業において特別支援学校で実践された記録映像を分析し指導案の作成を試みた。指導案作成後には授業の目的や指導、支援について話し合うことで、特別支援学校における授業の流れやメインティーチャーとしての教授、サブティーチャーとして児童生徒への支援をイメージできるようにした。また、特別支援学校教育実習への不安解消にもつなげている。
2 作成した教科書、教材		
1.「障害の重い子どもへのかかわりハンドブック～マルチアレンジングサポートの観点から～」	2016年3月	Ｖ実践事例「重度重複障害のある子どもの音楽的コミュニケーションによる指導」にて音楽的コミュニケーションの意義や方法や成果について提案した。子どもの主体性を引き出すには、自立活動のコミュニケーションの領域だけではなく6領域のすべてについて実態把握し多角的なアプローチができる教師の技量が求められる重要性について記載した。(P156～P163) 著者：橋本正巳、橋詰和也、渡邊真美　計13名
2.「重度・重複障害のある児童生徒への自立活動指導内容例集」（兵庫リハビリテイション心理研究会編）	2015年7月	担当部分：生活のリズムや生活習慣の形成に関すること(P19)、他者の意図や感情の理解に関すること(P51)、保有する感覚の活用に関すること(P60､P61)、感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関するこ

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
3.「特別支援教育ハンドブックQ&A」(伊丹市教育委員会発行)	2014年3月	と（P64､P65)､姿勢と運動/動作の基本的技能に関すること(P74)、作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること(P90)､コミュニケーションの基礎的能力に関すること(P93)。著者：石倉健二、梶正義、渡邊真美　計21名 通常学級の担任にも理解しやすいインクルーシブ教育システムの構築に関する特別支援教育のハンドブックを提供するために作成した。筆者はＶ資料「障害のとらえ方の変化～国際障害分類から国際生活機能分類（ICF）へ～」において、障害のある人々を取り巻く社会環境や障害についての考え方等についての資料を執筆した。(P158～P159)著者：柘植雅義、橋詰和也、藤田継道、宇野宏幸、井澤信三、渡邊真美　計42名
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.課題別学習相談の助言	2024年10月～現在	伊丹市立伊丹特別支援学校におけるからだの学習、教科学習等における個別およびグループ学習の授業に関する助言
2.特別支援学校の音楽の授業に関する研修会	2024年8月～現在	市立養護学校の音楽担当者の研修会
3.特別支援教育に関する研修会の講師	2024年8月～現在	伊丹市立伊丹特別支援学校特別支援教育実践講座の講師
4.動作法の療育キャンプのスーパーバイザー	2023年8月～現在	兵庫県肢体不自由教育研究協議会校長会主催の動作法の療育キャンプ(４日間通いの連合キャンプ)において、県内肢体不自由学校の指導者養成と学校に通う障害のある子どもとその保護者の支援を目的にスーパーバイズを行う。（年1回）
5.小学校特別支援学級における研究授業（公開）の指導助言	2015年10月～現在	特別支援学校の地域のセンター校としての支援事業において伊丹市内小学校特別支援学級の研究授業(公開)における指導助言をした。(伊丹小学校、摂陽小学校、笹原小学校)
6.動作法の療育キャンプのスーパーバイザー	2009年7月～2018年7月	兵庫県肢体不自由教育研究協議会校長会主催の動作法の療育キャンプ(3泊4日の連合キャンプ)において、県内肢体不自由学校の指導者養成と学校に通う障害のある子どもとその保護者の支援を目的にスーパーバイズを行う。（年1回）
7.音楽療法の講義とワークショップの開催	2008年8月～2019年8月	近畿肢体不自由教育研究協議会主催の研修会(大阪主催3回、京都滋賀主催3回、兵庫主催４回)にて音楽療法の講義とワークショップを実施した。
8.近畿地区の特別支援学校、中学校での音楽療法、音楽的コミュニケーションの講義、ワークショップの実施	2002年10月～2020年	依頼された近畿地区の特別支援学校、中学校にて音楽療法、音楽的コミュニケーションの講義、ワークショップを実施した。(ひまわり特別支援学校、西宮養護学校、川西養護学校、こやの里特別支援学校、阪神特別支援学校、尼崎市立中学校、京都府立与謝野海支援学校)
9.特別支援学校の動作法校内キャンプのスーパーバイザー	2002年6月～現在	県内特別支援学校において障害のある子どもを対象とした動作法の校内療育キャンプ、デイキャンプスーパーバイズを実施した。(校内キャンプ：西宮養護学校、川西養護学校、明石養護学校、ひまわり特別支援学校)
10.巡回相談、コンサルテーション、教育相談での助言	2002年4月～2024年3月	特別支援学校の特別支援教育コーディネーターとして、伊丹市の学校園を主に支援した。（わかばこども園、さくらだいこども園、伊丹幼稚園、ありおか分園、いけじり幼稚園、みずほ幼稚園、こうのいけ幼稚園、おぎの幼稚園、せつよう幼稚園、月影幼稚園、美鈴月影幼稚園、いずみ幼稚園、伊丹小学校、稲野小学校、鈴原小学校、天神川小学校、鴻池小学校、桜台小学校、池尻小学校、昆陽里小学校、緑丘小学校、有岡小学校、神津小学校、荻野小学校、南小学校、笹原中学校、北中学校、南中学校、松崎中学校、天王寺川中学校、荒牧中学校へ指導助言）
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.日本リハビリテイション心理学会スーパーバイザー	2014年12月6日	
2.養護学校教諭一種免許状	2007年3月31日	
3.聾学校教諭二種免許状	2007年3月31日	
4.養護学校教諭二種免許状	2002年4月1日	
5.日本音楽療法学会認定音楽療法士	1999年3月31日	
6.高等学校教諭二種免許状（音楽）	1985年3月30日	
7.中学校教諭一種免許状（音楽）	1985年3月30日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.伊丹市特別支援教育基本方針、サポートファイルの改訂	2016年12月～2018年3月	伊丹市特別支援教育審議会・部会の協力者として改訂版「今後の特別支援教育のあり方について」(基本方針)、サポートファイル「ステップ★ぐんぐん」の改訂について検討した。
2.伊丹市特別支援教育基本方針の検討	2012年8月～2013年2月	伊丹市特別支援連携協議会・ワーキンググループ構成員に任命され「今後の特別支援教育のあり方について」(基本方針)の検討に協力した。
3.学校園等コンサルテーション（伊丹市立伊丹特別支援学校）の実施	2012年4月～2024年3月	伊丹特別支援学校の地域支援事業として、伊丹市内の学校園を対象に教育相談や研修会の講師等の要請に対してコンサルテーションを実施した。(教育相談：年間300件程度。職員研修会、保護者研修会：年間5件程度)
4.伊丹市教育委員会　巡回相談の実施	2012年4月～2024年3月	伊丹市内学校園より教育委員会に要請のあった教育相談を巡回相談員として担当し指導、助言を行った(年間15件程度)。
5.伊丹市教育支援委員会	2012年4月～2024年3月	伊丹市教育支援委員（嘱託）として伊丹市の就学相談にかかわり、対象園児児童生徒の就学に関する訪問観察と面談、審議を遂行した。
4 その他		
1.令和2年度文部科学大臣優秀教職員表彰（文部科学省）	2021年1月	
2.平成25年度優秀教職員表彰(兵庫県教育委員会)	2014年2月	
3.平成25年度優秀教職員表彰(伊丹市教育委員会)	2014年2月	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.兵庫大会大会集録	単	2022年11月	第68回全国肢体不自由教育研究協議会第68回近畿地区肢体不自由教育研究大会令和4年度兵庫県肢体不自由教育研究協議会	大会テーマを「肢体不自由教育の充実をとおした共生社会形成の推進～個別性的な学びと協同的な学びの実現をめざして～」とし、地域との連携について共に考える立場で臨む地域のセンター的役割について、伊丹特別支援学校教育支援センターが実施している学校園等コンサルテーションの現状について発表した。（P194～P195）
2.改訂版 「今後の特別支援教育のあり方について」(基本方針)	共	2020年7月	伊丹市教育委員会	「Ⅲ．特別支援学校の専門性の向上とセンター的機能の充実」として、現状、今後の方向性、肢体不自由単置校としての取組の充実、医療的ケアが必要な児童生徒に対する体制整備、特別支援学校としてのセンター的機能の充実と地域の学校園への発信、市内の特別支援に係るネットワークにおける伊丹特別支援学校の役割（P13～P15）について担当した。著者：早﨑 潤、磯田香織、渡邊真美　計10名
3.近畿音楽療法学会誌 Vol.18　2019	共	2020年3月	日本音楽療法学会近畿支部	「学校教育の中の音楽療法～教育現場との連携～」で「特別支援学校との連携における現状」として地域の特別支援学校に携わっている音楽療法士にアンケート調査を依頼し学校との連携についての現状や音楽療法が学校にもたらした影響等をまとめたものを発表した（P12～P16）。著者：渡邊真美、片桐じゅん　計23名
4.ESC教育支援センター研究紀要平成30年度実践報告集第15号	共	2019年3月	伊丹市立伊丹特別支援学校	Ⅲ地域支援事業　２特別支援教育実践講座の中で「特別支援教育コーディネータースキルアップ講座」に取り組んだ活動内容をまとめ、報告している。通常学校の特別支援教育コーディネーターが自

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				校の校内体制を構築していくための知識・技能を身につけるための研修講座についてまとめた(P6～P9)。 著者：中島真由美、渡邊真美　計4名
5.日本特殊教育学会第56回大会(2018大阪大会)プログラム集・発表論文集	共	2018年8月	日本特殊教育学会第56回大会準備委員会	「運動プログラムが園児の注意散漫及び多動・衝動性に与える効果についての検討」について論じた（ポスター発表）。園児の注意散漫や多動・衝動性への対応が求められる幼稚園において、8つの動作課題で構成された運動プログラムを2週間継続してもらい、今後幼稚園教育の中で集団で実施できる効果のあるプログラムの開発を示唆した。(Web発表論文集によりページ不明）著者：石倉健二、渡邊真美、和田恒　計3名
6.近畿音楽療法学会誌 Vol.15　2016	共	2017年3月	日本音楽療法学会近畿支部	「学校教育の中の音楽療法～学校における音楽療法の役割～」で特別支援学校での音楽の授業や、学校教育現場への音楽療法の広がり、音楽療法の学校での役割、学校で実施するにあたっての課題について述べている(P113～P115)。著者：山口理恵子、小宮美咲起、渡邊真美　計27名
7.ESC教育支援センター研究紀要平成26年度実践報告 集第13号	共	2017年	伊丹市立伊丹特別支援学校	Ⅲ地域支援事業　２学校園等コンサルテーションの中で「小学校特別支援学級のからだの学習における担任と保護者へのコンサルテーション」についてまとめた。実施した4年間で担任が替わったが、保護者同席の元でのコンサルテーションであったため4年間、学校と家庭が協力し一貫した指導、支援が継続でき、成果を得られた事例を記載した。(P10)著者：渡邊真美、福冨寛之、和田恒　計5名
8.障害の重い子どもへのかかわりハンドブック～マルチアレンジングサポートの観点から～	共	2016年3月	社会福祉法人　全国心身障害児福祉財団	Ⅴ実践事例「重度重複障害のある子どもの音楽的コミュニケーションによる指導」にて音楽的コミュニケーションの意義や方法や成果について提案した。子どもの主体性を引き出すには、自立活動のコミュニケーションの領域だけではなく6領域のすべてについて実態把握し多角的なアプローチができる教師の技量が求められる重要性について記載した。(P156～P163）著者：橋本正巳、橋詰和也、渡邊真美　計13名
9.近畿音楽療法学会誌 Vol.14 2015	共	2016年3月	日本音楽療法学会近畿支部	「学校教育の中の音楽療法～子どもとの関係に焦点をあてて～」で「自立活動の視点からみる音楽療法」を執筆。音楽療法のアプローチは自立活動のすべての領域から説明することができ、特に子どもとの関係性の構築においては6区分の相互関連性の視点で考えていくことが重要で音楽療法のアプローチにおいても同じ事が言えると執筆し（P125～P128）、意見交換の進行とまとめを勤めた（P131～P133）。著者：渡邊真美、池田智子、山口理恵子　計20名
10.重度・重複障害のある児童生徒への自立活動指導内容例集	共	2015年7月	兵庫リハビリテイション心理研究会編	担当部分：生活のリズムや生活習慣の形成に関すること(P19)、他者の意図や感情の理解に関すること(P51)、保有する感覚の活用に関すること(P60､P61)、感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関すること（P64､P65)､姿勢と運動/動作の基本的技能に関すること(P74)、作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること(P90)､コミュニケーションの基礎的能力に関すること(P93)。著者：石倉健二、梶正義、渡邊真美　計21名
11.近畿音楽療法学会誌 Vol.13 2014	共	2015年3月	日本音楽療法学会近畿支部	「学校教育現場での音楽療法」にて筆者が特別支援学校にて実践している音楽的コミュニケーションについて、その位置づけや意義、授業の中での主指導者と児童生徒の支援をしている担任との役割分担、具体的な支援方法等についてまとめている。児童生徒の生き生きとした主体的な活動を引き出す２者の絶妙なチームプレイが重要であることについて記載した。著者：渡邊真美、福井圭子、萩野由美子　計22名
12.ESC教育支援センター研究紀要平成26年度実践報告集第11号	共	2015年3月	伊丹市立伊丹特別支援学校	Ⅲ地域支援事業　２学校園等コンサルテーションの中で学校園等コンサルテーションにおける小学校への関わりの事例として「B小学校の取り組み」をまとめた。気になる児童について、中学校への引き継ぎ方、ケース会議への参加、児童くらぶからの相談について等に取り組んだ内容に関して成果と課題について記載した。(P6～P8)著者：橋詰和也、天後毅彦、渡邊真美　　計9名
13.特別支援教育ハンドブックＱ＆Ａ	共	2014年3月	伊丹市教育委員会	通常学級の担任にも理解しやすいインクルーシブ教育システムの構築に関する特別支援教育のハンドブックを提供するために作成した。筆者はⅤ資料「障害のとらえ方の変化～国際障害分類から国際生活機能分類（ICF）へ～」において、障害のある人々を取り巻く社

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
14.ESC教育支援センター研究紀要2012年度実践報告集第9号	共	2013年3月	伊丹市立伊丹特別支援学校	会環境や障害についての考え方等についての資料を執筆した。(P158～P159)著者：柘植雅義、橋詰和也、藤田継道、宇野宏幸、井澤信三、渡邊真美　計42名 Ⅲ地域支援事業の実際　４サポート教室「小学生グループの取り組み」 の中で気になる多様な行動を示す小学校低学年4名に、ことばやルールの理解、ソーシャルスキル、行動のコントロール、ボディーイメージの獲得を目的に、ゲームやクイズの活動を通して実施した内容をまとめ記載した。(P35～P41)著者：橋詰和也、天後毅彦、渡邊真美　計6名
2 学位論文				
1.自閉性障害をもつ子どもとその母親への音楽療法～母親の子どもへの関わりについて視点をあてて～	単	2006年3月	兵庫教育大学	修士論文
3 学術論文				
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.「学校教育現場の音楽療法」～音楽療法と音楽教育の共通点と相違点～	共	2024年3月17日	日本音楽療法学会第22回近畿支部大会	学校教育現場ではすでに教員が授業で音楽療法が実施しており、外部講師として特別支援学校や特別支援学級で携わっている音楽療法士もいる。「音楽療法」と「音楽教育」の相違点については学びの機会が多いが、今回はあえて共通点についても注目し発表した。ラウンドテーブル（萩野由美子、淺尾世津子、池田奈保、渡邊真美）計４名
2.学校教育現場の音楽療法～学校への音楽療法導入～	共	2023年3月12日	日本音楽療法学会第21回近畿支部大会	学校教育への音楽療法を導入について実践している音楽療法士達から導入の経緯等を聴き、今後音楽療法士としてできることについて検討した。ラウンドテーブル（河端弘子、萩野由美子、渡邊真美、池田奈保、山口理恵子、淺尾世津子、片桐じゅん）計7名
3.ポストコロナを見据えた特別支援教育における音楽活動を検討する～歌津・楽器演奏だけではない「音楽する」ことの意義をさるぐ～	共	2021年2月5日	日本音楽療法学会　研究発表特別大会	コロナ禍による新しい活様式を強いられる状況で、学校での音楽活動がどのようにかわるのかを示唆した。自主シンポジウム（高山仁、青木久美、大崎祐子、矢作聡子、渡邊真美）計5名
4.地域のセンター校が実施する特別支援教育コーディネーター研修のあり方の検討	共	2019年11月10日	日本LD学会第28回大会	市内小中学校の特別支援教育コーディネーターが、自信を持って校内支援に積極的に関与するための知識・技能を身に付けるきっかけ作りの場として、また、どのような研修であれば意欲を高められるのかを検討するために研修会を企画、実施した内容を発表した。ポスター発表（中島真由美、渡邊真美）計2名
5.学校教育における音楽療法、その意義と課題を「学習指導要領」から探る	共	2019年9月22日	第19回日本音楽療法学会学術大会	新学習指導要領を視野に学校現場における音楽療法の意義と課題を考えた。自主シンポジウム（高山仁、吉村奈保子、青木久美、大崎祐子、矢作聡子、渡邊真美）計6名
6.「学校教育の中の音楽療法～教育現場との連携～」	共	2019年3月16日	日本音楽療法学会第17回近畿支部大会	「特別支援学校との連携における現状」として地域の特別支援学校に携わっている音楽療法士にアンケート調査を依頼し学校との連携についての現状や音楽療法が学校にもたらした影響等を発表した。ラウンドテーブル（渡邊真美、片桐じゅん）計2名
7.運動プログラムが園児の注意散漫及び多動・衝動性に与える効果についての検討	共	2018年9月23日	日本特殊教育学会第56回大会	園児の注意散漫や多動・衝動性への対応が求められる幼稚園において、8つの動作課題で構成された運動プログラムを2週間継続してもらい、今後幼稚園教育の中で集団で実施できる効果のあるプログラムの開発を示唆した。ポスター発表(石倉健二、渡邊真美、和田恒)計3名
8.「学校教育の中の音楽療法　～心を支える～」	共	2018年3月24日	日本音楽療法学会第16回近畿支部大会	学校には自分の行動に自信のもてない子どもや他人を傷つけたり、学校に行けなくなったりするなど様々な要因により心理的に不安定である子どもたちがいる。これら心理的な不安定をきたす子どもた

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				ちに、音楽療法や音楽療法的な関わりで心を支えている教員がいる。コメンテーターに元神戸市初任者研修担当の太田亨氏をむかえ、子どもたちの心を支えるために音楽療法が果たす役割と、学校現場での音楽療法の必要性を考える会として発表した。ラウンドテーブル（渡邊真美、渡瀬みわ、山口理恵子、太田亨）計４名
9.特別支援教育における音楽療法の意義・課題を「その現場」から探る	共	2017年9月26日	第18回日本音楽療法学会学術大会	音楽療法の普及に向かい、特別支援学校の教員・外部専門家により「特別支援教育における音楽療法の意義と課題」について「その現場」から考えるシンポジウムとした。自主シンポジウム（高山仁、青木久美、大崎祐子、矢作聡子、渡邊真美）
10.学校教育の中の音楽療法　～学校現場での音楽療法の専門性とは～	共	2017年3月4日	日本音楽療法学会第15回近畿支部大会	学校教育の中での音楽療法の専門性について討議した。学校現場における音楽療法が果たす役割として教員養成の立場から考えたり、重度肢体不自由児が在籍する特別支援学校で音楽療法を実施するにあたっての教員が果たす役割について討議した。ラウンドテーブル（上野智子、菅道子、川崎亜希子、渡邊真美）計4名
11.「学校教育の中の音楽療法～学校における音楽療法の役割～」	共	2016年3月19日	日本音楽療法学会第14回近畿支部大会	特別支援学校での音楽の授業や、学校教育現場への音楽療法の広がりや、音楽療法の役割、学校で実施するにあたっての課題等を事例を通して提案した。ラウンドテーブル（山口理恵子、小宮美咲起、渡邊真美）計3名
12.「学校教育の中の音楽療法～子どもとの関係に焦点をあてて～	共	2015年3月7日	日本音楽療法学会第13回近畿支部大会	学校現場において教科指導で子どもと携わっている教師に、音楽療法士という立場で子どもにかかわることができるのかを、事例を通して検討した。ラウンドテーブル（池田智子、山口理恵子、渡邊真美）計3名
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
６．研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2019年5月～現在	日本LD学会
2.2019年3月～現在	ひょうご自立活動研究会
3.2018年4月～現在	日本特殊教育学会
4.2014年2月～現在	日本リハビリテイション心理学会
5.1995年4月～現在	日本音楽療法学会
6.1993年5月～現在	西宮音楽療法研究会
7.1990年8月～現在	兵庫心理リハビリテイション研究会